

令和6年度第2回豊岡市部活動の在り方検討委員会 議事録

令和7年2月6日（木） 豊岡市役所 豊岡稽古堂3-1 交流室

1 開会（15時30分）

2 挨拶（西田委員長）

みなさんこんにちは。大雪の中、委員の皆さまには、全員出席をいただきありがとうございます。この委員会では、国のガイドラインに従って部活動の地域移行について検討していくことになっています。本日は国県の動き、但馬の市町の状況をもとに、豊岡市の今後の動きについて検討いただきたいと思います。特に、人材バンクについて委員の皆さんから忌憚のないご意見をいただきたいと思います。事務局からありましたように4時半から養父市とオンラインをつなぐ予定になっていますので、そのあたりも考慮していただきながら、ご意見をいただければと思っています。よろしくお願いします。

（嶋教育長）

みなさんこんにちは。大雪警報が出たら中止にしようと思っていたのですが、無事に開催することができました。

本日は2回目です。国と県の動きが少しありました。まず、地域移行の名称を地域展開に変える。2つ理由があります。1つは、学校内で運営されてきた活動を広く地域に開き、地域全体で支えていく。地域に開いていくということは、従来の部活動のイメージは捨てましょうということです。従来の内容や指導の仕方については、横に置いておきましょうという考え方です。2つ目が、新たな価値を創出し、より豊かで幅広い活動を可能とする、例えば、マルチスポーツ、スポーツと文化芸術の融合、レクリエーション的な活動等を含むです。どちらかという、文化・スポーツ振興課が担っているような活動に移行していきましょうということです。こういうメッセージがこの名称変更には込められています。

昨年の10月にB&G財団が主催する全国の教育長会議がありました。テーマはこの部活動地域移行をどうするかです。豊岡の場合、昨年度皆さんに協議していただいたように、まず部活動指導員を増やしていくことから始めることになりました。部活動指導員は当初は5人でしたが、いまはバンク登録25人、実際に指導していただいているのは19人ということで、皆さんのご尽力のおかげで、まずまずうまくいっているのではないかと思います。しかし先ほど示しましたように、国の方針としては、休日は学校の手を放して、学校が今までしていないような種目をしていこうというように流れています。その根拠はというと、全国3万人の中学生に意識調査をした結果です。部活動に何を求めるのか、私たちは、勝利とかより高い技能を習得するとかいうことをめざしていたわけですが、調査結果では「勝利を目指すは約31%」、「友達と気楽に楽しむが35%」でした。豊岡市も同

じような調査を一昨年しています。市内の全中学生に調査した結果、部活動参加の目的は「友達と仲良く楽しく」が一番多くて、約72%でした。「体力や技術の向上」が65%、3番目が「大会やコンクールなどでよい成績を収める」となっています。いまの子どもたちが部活動に求めるものは、私たちの頃とは違っているのですが、体力の向上やよい成績を収めることも大切なことではありますが、それを引きずってはいは地域移行は無理だという解釈で、国も県も舵を切り始めています。

しかし、今までの学校部活動の切り離すことはできないということで、佐渡市は、平日は学校で普通の部活動を行い、休日は2つの形態で活動を行っています。1つ目の形態は、学校で平日に行っている部活動の延長としてスキルアップを行うかたちです。2つ目はエンジョイ型と名前を付け、スポーツや文化の魅力を感じるかたちです。学校や教育委員会の手を離れて、地域や市役所の文化スポーツの担当が中心となってマネジメントをして、文科系であれば書道・囲碁・将棋・プログラミング・漫画・英会話・三味線。スポーツでは、ゴルフ・ボルダリング・硬式テニス・体操などを月に2回程度、来年からは月に3回程度土日に行うと。子どもたちが学校ではできない活動を土日にやっというここと進めています。それが本当にできるのかということもありますが、まずは、部活動に対する考え方を改めていかなければならないということも皆さんに報告したいと思います。

国の方針は、休日の部活動は令和13年度までに原則すべての学校部活動の地域展開をめざすという目標を持っています。午前中に但馬の教育長会があったので部活動のことを話題にしました。3市2町でかなり差がありますが、あるまちは令和11年には平日も休日も含めてすべて地域展開したいと検討委員会の中で話をしているそうです。令和10年度までに地域展開したいというまちもありました。地域展開する場合に受け皿がないので、市町をまたいで広域で展開しなければいけない場合が出てきます。来年度、私たち、担当者、首長部局の担当者、校長などを含めた但馬全体の会を持って、それぞれの進捗状況や考え方、市町をまたいでできるのかどうかなどを議論していきたいと思います。広域になると子どもたちの送迎も問題が出てきますので、北但と南但と分けたらどうかなどの意見も出ていました。知恵を出し合いながら考えていきたいと思います。休日についてはそのように進めていきます。平日に関しては部活動指導員を少しでも増やしていくことを進めていきます。また皆さんにも情報を提供していきたいと思います。よろしくお願ひします。

3 報告事項

(1) 国と県の動向について

(事務局)

国は、昨年の12月に「地域スポーツ・文化芸術創造と部活動改革に関する実行委員会」会の中間まとめを発表しました。詳しくは、資料冊子の9ページから11ページに掲載していますので、後程ご覧ください。

公立中学校の部活動改革に関する主な動きを3つ報告します。1つ目は、「地域移行」

を「地域展開」と名称変更することです。移行という言葉は、部活動を学校が「手放す、地域に任せる」というイメージが先行してしまっていたため、「部活動を地域に開き、地域で支えていく。」というイメージに持って行きたいという国の考えがあるものと思われます。また、学校部活動のように専門的な活動ではなく、マルチスポーツやスポーツと文化芸術の融合、レクリエーション的な活動など幅広い活動も国はイメージしているようです。

2つ目は、期間の名称についてです。来年度までの3年間を改革推進期間と言っていますが、あらたに令和8～10年度を改革実行期間の前期、その後3年間を後期と言い、これから7年後の年度末には「休日の活動は、原則地域で行うようにする体制づくりを完了させること」をうたっています。

3つ目は、地域展開を進めるうえで、自治体に専門部署やコーディネーターの配置など体制づくりが必要だとうたっています。

次に県の動きです。兵庫県は今年の7月に部活動地域移行推進計画を発表しました。主な内容として、来年度までに各市町で検討を進め、再来年度から3つのパターンを参考に改革を進めるようにうたっています。1つ目のパターンは、学校部活動は廃止し、地域クラブのみで活動する地域移行型。2つ目は、学校部活動に指導員を配置したり、合同部活動を行ったりする地域連携型、3つ目は、地域移行型と地域連携型を併用するハイブリッド型です。また、どのパターンで改革を進めるにしても、休日は、原則教職員が指導しなくてもよい体制づくりを進めましようともうたっています。

シート5は、これまで何度も紹介している、国が示す地域展開（オレンジ）と地域連携（緑）のイメージです。シート6は、県が示している、地域移行型、地域連携型、ハイブリッド型のイメージです。参考にいただければと思います。県は、推進計画の中で、県・市町・学校それぞれの役割についても示しています。市の役割としては、協議会（豊岡ではこの在り方検討委員会）の設置、実証事業の実施により、課題を洗い出し、推進の方向性や方針を決めること、指導者や運営団体の確保のために関係団体やクラブとの調整を図ることになっています。実証事業についてはこの後の協議事項の中であつかいます。国と県の動向についての報告は以上です。

（西田委員長）ただ、今の報告につきまして、何か委員の皆さんの方から質問等ありましたらお願いいたします。

（西田委員長）シート3に中間とりまとめとありますが、この実行会議と国のガイドラインとの関係性について教えてください。

（事務局）実行会議の所管も国のガイドラインの作成もスポーツ庁と文化庁です。

(2) 但馬地区部活動地域移行連絡協議会について、
(事務局)

次に、昨年の11月にありました、但馬地区の協議会について、特に但馬の他市町の推進状況をお伝えします。

まず、養父市については、今年度から地域展開に向けた国の実証事業に取り組んでいます。このあとの協議の中で、養父市とオンラインでつなぎ、担当の方から説明をいただく予定にしています。朝来市は部活動指導員を配置したり、市の事業として陸上の合同練習会を実施したりしています。香美町は、協議会で今後の方向性について検討しており、来年度は人材バンクを立ち上げて部活動指導員を配置していく方向で準備を進めているそうです。新温泉町も検討委員会で今後の方針について協議しています。また地域展開に向けて積極的に取り組んでいる播磨町の担当者を招き、関係者団体や学校関係者向けの講演会を開いたり、野球の合同練習会を行ったりしています。(2)の報告は以上です。

(西田委員長)ただ、今の但馬の市町の状況につきまして、何か委員の皆さんの方から質問等ありましたらお願いいたします。

(質問・意見なし)

4 協議事項

(1) 今年度の取組 部活動指導員の人材バンクと配置について

(事務局)今年度の取組状況、特に人材バンクの運営と部活動指導員の配置について、協議をしていただきたいです。また、指導員の研修について、これまでからご意見をいただいおり、実施予定の内容や方法についてご意見をいただきたいです。人材バンクの登録者です。運動部は7つの種目に17名、文化部は3つの種目に8名、合計25名の方に登録をいただいています。そのうち、運動部には、4校に12名、文化部には、5校に7名、合計19名の方に学校で指導をいただいています。

(西田委員長)人材バンク登録や配置につきまして、何か委員の皆さんの方から質問やご意見がありましたらお願いいたします。

(10番 徳網委員)いま話をしている部活動というのは何時から何時をイメージして話を進められていますか。人材バンクの人を増やそうと思えば、6時以降であれば仕事終わりに教えようという人がたくさんいるかもしれないけど、授業が終わった4時とかであれば、人を増やすことはなかなか難しいですね。今イメージされているのは授業が終わった後の時間ということでしょうか？

(事務局) 部活動指導員は、学校部活動に入っただけの方なので、平日は15時半から17時半とか、土曜や日曜の午前中とかになります。大会があれば土日の昼間、そういうイメージです。

(西田委員長) 人材バンクの登録の際に、指導できる曜日や学校などの希望を書く様式になっていますので、土日しか行きませんという方もあると思います。

(西田委員長) スポーツでいえば日本スポーツ協会のコーチの資格があるのですが、コーチ資格は一定期間内に研修を受けなければ次の更新ができません。人材バンクに登録されている方の中で、コーチの資格を持っておられる方が何人くらいおられるかわかりますか。

(事務局) 種目別協会認定の資格が3名ほど、日本スポーツ協会のコーチ資格が3名ほどです。

(10番 徳山委員) 年齢層はどうなっていますか。

(事務局) 20代から60代までおられます。

(10番 徳網委員) それは休日に限ってですか。平日可能な方だとどうなりますか。

(事務局) 平日に来ていただいている方は、特別支援学級支援員として学校に入っただけの方が多いです。勤務が15時30分ごろ終わって、そのあとは部活動指導員として勤務していただいています。他に仕事をされている方であれば、パートタイムでされている方は平日でも来ていただいています。一線を退かれた方にも来ていただいています。ただ平日はなかなか難しいのは確かです。

(10番 徳網委員) 人材バンクの周知が不十分だと思います。

(9番 安田委員) どのように告知していますか。

(事務局) ホームページと市の広報で周知したり、関係団体の会議などで文化・スポーツ振興課が協力を依頼したりしています。あとは中学校の校長先生方に紹介していただいたりしています。

(9番 安田委員) ハローワークに出してはどうですか。職を求めている人が検討してくれるかなと思います。

(2番 丹賀委員) 先日県のセミナーに参加してきましたのですが、1番話題になったことは、指導中の事故についてです。指導者が法人であればいろいろな保険に入れる、学校であれば国の補償がある、個人で指導している場合に事故があって裁判になっている例がたくさんあるという話でした。まず受け皿をしっかりとさせないと、事故後の対応が大変になるのではないかと思います。それから、豊岡、但馬で3つのどの移行タイプを選ぶのか。こういうタイプをめざすからこういう人がいるのだということだと思います。事故の際は、指導者個人の責任にするのではなく、受け皿の保険で対応することが必要だと思います。

(西田委員長) いまの部活動の保険はどうなっていますか。

(事務局) 豊岡市は学校部活動の中に指導員さんに入っているから、学校の教育活動中として、日本スポーツ振興センターの保険が適用されます。それが地域展開になって地域クラブでの活動となると、学校の教育活動ではなくなるので、それぞれの団体に保険に入ってもらうことになります。保険の入り方についても、実証事業の中での検討課題としてあがっています。市全体、団体ごと、個人ごとなどいろいろな方法がありますので、よい方法を検討していくことになります。

(西田委員長) 確認ですが、いま豊岡市は学校部活動として行っているから、事故があれば学校の保険で対応することになりますね。それが地域移行してしまうと受け皿団体の方で保険に入らなければならない。その費用は生徒にいくらか負担してもらわなければいけないのですね。

(事務局) 実証事業として認められると補助金が入りますので、そのお金を使ってもいいですし、参加費として生徒から徴収するという考え方もあります。

(西田委員長) 地域移行になったときに、受け皿となる個人や団体によって加入する保険が変わってくるということでしょうか。

(事務局) 個人が受け皿になることは難しいと思います。団体を作るか、既存の団体にお願いするかになると思います。

(2番 丹賀委員) 先日の県のセミナーでは、受け皿となる団体を作ったとおっしゃってました。それも保険のために。NPO法人だと思います。そんなことをしなければいけないのかと思いながら話を聞いていました。

(2) 今後の取組 ア、部活動指導員への研修について

(事務局) 次に、指導員に対する研修についてです。但馬や県内市町の担当者数名に尋ねたのですが、市町独自で実施しているところはなかなかありませんでした。そんな中で、県スポーツ協会のアドバイザーが、オンラインでの研修について教えてくれました。

学校の教職員への研修会などを実施する独立行政法人教職員支援機構が、オンラインでの研修を公開しており、だれでも視聴することができます。また日本スポーツ振興センターも同様の研修動画を公開しています。その中から、「事故発生時の対応」、「保護者との関係づくり」、「セクハラや体罰の防止を中心としたコンプライアンス」、「熱中症予防」について、配置前に各自で視聴し、学んでいただくようにしてはと考えています。動画は4種類で、それぞれ10～30分弱の視聴になります。

以上、人材バンクの運営、部活動指導員の配置、指導員への研修について、ご意見をいただければありがたいです。よろしくお願ひします。

(西田委員長) ただいま説明があつた指導員への研修の方法や内容について、委員の皆さまからご意見を願ひします。

(西田委員長) この動画は自宅で見てもらうということですか。

(事務局) その想定です。

(西田委員長) 動画を見たという報告のようなものを出してもらう予定ですか。

(事務局) 視聴した日時と学んだことを簡単に書いていただこうと考えています。人材バンクの登録者ではなくて、学校への配置が決まった方を対象に、指導に入る前に見ていただこうと考えています。

(西田委員長) 初年度だけですか。

(事務局) 一度でいいのか、毎年なのか、数年に一度でいいのか、委員の皆さんにご意見をいただきたいです。

(10番 徳網委員) いろいろな資格の更新は、1～2年に1回の更新講習があるので、そのくらいのペースでいいのかなと思います。

(嶋教育長) 部活動を一番長くやっていて、一番よく知っているのは学校の先生なので、松下校長や岩井先生などが講習しているところを動画に撮って、それを見てもらう方法も

ありますよね。例えば、想定される悩みや問題点を Q&A 方式で解説してもらおうようなことであればできますよね。豊岡の部活動を一番よく知っているのは学校の先生方なので、1つの意見として考えてみてください。

(7番 松下校長) 集まって研修ができるのであれば、その方がいいと思います。難しいのであればこのような方法でもいいのかなとは思いますが。

(9番 安田委員) 生徒の関係づくりが1番大切なのではないかなと思います。生徒の考え方も多様化していますので、先生方も生徒指導や生徒との関係づくりに悩まれているのかなと思いますので、そのような研修も必要だと思います。

(2) 今後の取組 イ、地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業について

(事務局) シート14です。実証事業について簡単に説明します。実証事業とは、地域展開に向けて、運営団体や実施体制の整備、指導者の確保、参加費負担の支援、施設の活用などについて市町が取り組む国の事業です。今年度は県下42市町組合のうち、運動部は19、文化部は9の市町組合が取り組んでいます。今年度から取り組んでおられる養父市に具体的な様子を教えてください。

— 養父市の説明 —

(西田委員長) オンラインによる指導について、もう少し具体的に教えてください。

(養父市) ○○中学校の○○部で行っています。顧問の先生が競技の未経験者であり、指導に不安を感じていたため導入しました。タブレットで練習や指導の様子を撮影し、それをプロのコーチに送って助言をもらい、練習に活かしていくことができます。ただ、タブレット操作の難しさや相手コーチの多忙さなど、課題もあります。

(4番 加藤委員) 感想です。地域移行についてのイメージが少しできました。いままで部活動を地域に任せてしまうというイメージしかなかったのですが、行政として地域の団体・クラブを支援し、育てていくものだということが分かりました。豊岡市も行政として、地域のスポーツ・文化団体をどう育てていくのかを考えないと継続も発展もしていかないのではないかと思います。

(6番 中井委員) 私も養父市の取組を聞かせていただいてイメージが作りやすくなりました。現在取り組まれている合同部活動についての成果や課題を聞いてみたいです。

(養父市) 合同部活動の課題としては、生徒の送迎についてです。時間がかかって活動時

間が確保できない、費用が大変多くかかる、運転手さんの確保が難しいなどの理由で、平日での実施は難しいです。休日は保護者の皆さんに協力をいただきながら何とか実施をしています。合同部活動でも現在は教員が指導を行っていますので、今後は部活動指導員さんに指導を担っていただけるようにしたいと考えています。

(3番 中田委員) 部活動に対するイメージは自分たちが経験してきたことしかなかったですが、ダンスや天文など、子どもたちが喜びそうなものをつくっておられるのがいいなと思いました。

(事務局) 今後、豊岡市としては、県が示す「ハイブリッド型」で進めていくことになると考えています。今後、関係団体との調整に入ることになることをご確認ください。

5 その他

次年度の在り方検討委員会について

6 閉会 (16時55分)